

教育・文化ふくい創造会議 第一次提言（概要）

I 「総合的な学力」の向上をめざして

提言 1 学校の「質」を高め、子どもたちの「総合的な学力」を伸ばす

- 「我が校の教育推進プラン」（スクールプラン）を作成・公表する
 - ・各学校が、授業をはじめとする教育活動の目標や内容、方法等を分かりやすく明示した「我が校の教育推進プラン」を作成し、子どもたちや保護者、地域に公開
- 学力調査・高校入試を授業改善に活かす
 - ・学力調査の結果を分析し、学校の実態に応じた「学力向上プラン」を作成・実践
 - ・県立高校の入試問題を改善
- 短期・中長期の目標を持って成果を
 - ・将来の「めざすべき姿」（状態目標）を設定し、中長期的な視点で教育施策を展開
 - ・「我が校の教育推進プラン」の中で、教育の成果を多面的に測るアウトカム指標を設定
 - ・定期的に、県民や子どもたちへの意識調査を行い、教育施策や授業改善に反映
- 「読み・書き・計算」等の基礎・基本を徹底
 - ・全ての小学校において「読み・書き・計算」のための一斉学習の時間帯を設けるなど、一人ひとりの到達度に応じたていねいな指導を充実
 - ・「白川文字学」を活用した福井県独自の教材を開発し、漢字の成り立ちや意味に触れながら、系統立てて教える漢字教育を推進
 - ・「話す・聞く」といったコミュニケーション能力を高めるための教育を充実
- 小中連携・一貫教育の推進
 - ・教員の人事交流の促進、学習指導・生徒指導の連携強化、一貫性がある無駄のないカリキュラム編成など、義務教育9年間を見通した総合的な教育を実践
- 不登校対策の充実 ～通うのが楽しい学校づくり～
 - ・これまでの不登校に関する総合的な支援事業の成果と課題を検証し、改善
 - ・学級編制基準の適正化など、小・中学校間で学習環境・生活環境が激変しないような指導体制を整え、未然防止策を充実
 - ・不登校になった子どもたちについては、継続的な学習を支援

提言 2 信頼される親に、地域と共に歩む学校に

～家庭の教育力を高め、地域の教育力を活かす～

- 子どもの人格形成は家庭教育から
 - ・小学校就学前の子どもを持つ親を対象とした相談体制や研修会・公開講座を充実するなど、家庭、幼稚園、保育所等の福祉関係機関が一体となった「就学前教育」の充実
 - ・事業所内で家庭教育講座等を開催する企業を「家庭教育支援企業（仮称）」として登録するなど企業との連携を強化し、「家庭教育のための出前講座」を実施
- 家庭で育む「自ら学ぶ意欲」、「学習習慣」
 - ・小学校低学年の子どもを持つ親を中心に、家庭学習の方法等を共同で学ぶ機会を創出
- 地域と学校が互いに支え合う関係づくり
 - ・同一中学校区内の小・中学校が合同で、家庭・地域・学校が協議する場を設置（「福井型コミュニティ・スクール」の拡充）

II 教員の指導力向上策

提言3 「共同の学び」が指導力を高める

- 校内の授業研究を日常化
 - ・日常の教育活動を行う学校現場において、授業研究会をさらに拡充
- 「教育現場からの改善運動」を積極支援
 - ・学校単位での優れた改善運動を顕彰し、広く県内の学校に紹介・共有化
 - ・学校を挙げて学習環境を改善
- 教員OBによる「学校サポート制度」の導入
 - ・経験豊かな教員OB等が「学校サポーター（仮称）」として複数の学校を巡回する体制整備

提言4 「内」から「外」へ、校外研修のススメ

- 地域の研究サークル活動を重点支援
 - ・同一地域内における複数の学校の教員が参加する研究サークル活動を奨励・支援
- 経験年数・校種・教科を越えた研鑽の機会創出
 - ・多様な経験年数の研修、校種や教科にとらわれずに討論・意見交換できる講座等を開設
- 県を越えて先進的な取組みを学ぶ
 - ・県外の先進的な取組み、最新の優れた授業の考え方・実践方法を学ぶ機会を拡大

提言5 教育研究所の機能強化

- 研修機能の強化
 - ・中堅教員研修を充実するなど、教員養成から退職に至るまでの総合的な研修体系に再編
 - ・臨時任用講師が習得すべき資質・能力について、基本的な研修を充実・強化
- 教育研究所等の人員体制を充実
 - ・教育研究所等に専門的な研修スタッフを充実し、より一層高度な研修を実施
 - ・教育研究所に「指導主事」を適正に配置し、学校への訪問指導を行うなど校内研修を支援
- 教育研究所等の在り方検討
 - ・教育研究所等の施設の改築や独立行政法人化、業務の一部民営化等も含め、これからの時代に適応した教員研修・教育研究機関の在り方を検討

提言6 大学等との連携で磨く資質・能力

- 福井大学教職大学院との連携で「理論」と「実践力」を高める
 - ・大学院での学修の保障や研修情報の提供など、教員のキャリア開発を支援
- 大学連携リーグ等で磨く教員の資質・能力
 - ・県内大学や民間研究機関における専門的な知識や技術を結集し、指導方法の改善やコミュニケーション能力、カウンセリング能力の向上につながる研修講座等を充実

提言7 教員の意欲を高めるプラス思考の評価システムを導入

- 教員一人ひとりの「キャリアカード」で意欲を高める
 - ・教員一人ひとりがキャリアを記録し、適切な自己点検・自己評価に活かすことのできる「キャリアカード」を導入するなど、福井県共通のキャリアアップ制度を新設
- 複線型の教員評価・任用制度の導入
 - ・自らの努力で、高い専門性や高度な知識を身に付けた教員を適正に評価し、任用するための仕組みづくりを推進
- 年に一度の「ティーチャーズ・デー」（先生の日）を
 - ・PTAや児童会・生徒会等が主体性を発揮して、教員の仕事に感謝し、理解を深めるための「ティーチャーズ・デー」（先生の日）を設けることを提案

Ⅲ 理科・数学教育の充実

提言8 楽しみ、納得の理科・数学 ～子どもたち全員の基礎学力アップ～

■楽しく、分かりやすい授業へ

- ・子どもたちが、楽しく、納得しながら学ぶことができる指導法や教材・教具を、教育研究所や教科研究会等を中心に研究・開発
- ・小・中・高校の教員が連携して、小学校から高校までの学習カリキュラムを研究・理解するための活動を推進
- ・算数・数学は、実生活との関わりを具体的に教えたり、子どもたちがつまづく箇所や問題を分析し、つまづき解消のための解説集を作成・活用したりするなど工夫・改善

■小学校教員の理科指導力の向上

- ・理科の免許状を持つ教員OB、地元大学の理系教官等の支援を得て、日常の授業研究会、長期休業・放課後を活用した研修を実施

■小学校の理科・算数の指導体制を改善

- ・各小学校に一人以上、理科や数学の免許状を持つ教員を「教科担当主任」として配置。小学校高学年（5年、6年）の理科・算数の授業を、理科や数学の免許状を持つ専科教員が担当する「教科担任制」を導入することも有効

■観察・実験で高める理科の基礎力

- ・福井県独自に、小学校の理科実験等をサポートする「理科支援員」の配置を拡大
- ・理科室や実験器具等の整備・活用の実態を調査し、改善

■地域の特性や身近な素材を活かした理科学習の充実

- ・福井県の豊かな自然環境や地球温暖化問題、原子力・エネルギー問題など、子どもたちに身近な素材を選択し、「テーマ学習」や「ワークショップ型の授業」を充実
- ・大森房吉博士など、地域にゆかりのある人物や身近な素材を活かした教材を開発・活用

提言9 理数の応用力・実践力を伸ばす ～大学進学・就職のための学力アップ～

■大学進学のための理数学力の向上

- ・小・中・高校の連携を強化しながら、福井県独自の理数系カリキュラムの研究・開発を推進し、小学校から高校まで一貫性を持った理数教育を実践
- ・高志、武生、若狭高校の「理数科」の選抜方法の見直し、カリキュラムの充実

■ものづくり実践を通じたカリキュラムの充実 ～就職のための理数基礎力の向上～

- ・学校と県内の大学や経済団体、企業とのネットワークづくりを行い、実践的なカリキュラムを充実

■全国・世界に通じる応用力を育てる

- ・中・高生が理科や数学の応用力・実験力を競う「福井県理数グランプリ（仮称）」の開催
- ・子どもたちが国内外の最先端科学技術に触れ、学ぶ機会を創出

提言10 地域の科学力結集 ～地域での体験で伸ばす「科学の芽」～

■地域のイベントを分かりやすく伝える「理数イベント情報マップ」

- ・福井県内で開催される年間の理数イベント・教室等の情報を一元的に提供するための情報マップを作成し、子どもたちが選択・参加しやすい環境づくりを推進
- ・福井県独自の「科学の日」や「サイエンス週間」を設けて、講演やワークショップを開催

■子どもたちが地域で学べる「ふくいサイエンス寺子屋」

- ・「放課後子どもクラブ」など放課後の生活・活動の場を活かし、理科や算数・数学の楽しさを体験してもらう拠点「ふくいサイエンス寺子屋（仮称）」を整備

■中学・高校生のための「ふくいサイエンススクール」

- ・大学・研究現場において講義や実験を行う「ふくいサイエンススクール」を充実し、より高度な知識や技術に触れ、理科や数学に対する理解を深める機会を創出

IV 今後の検討課題（第二次提言に向けて）

課題 1 教員が本来の職務に専念するための「学校マネジメント改革」

- 教員本来の職務である学習指導・生徒指導等の時間を充実するための環境づくりを進める「学校マネジメント改革」について検討

課題 2 「元気福井っ子笑顔プラン」を見直す

- 学級編制基準の適正化やティーム・ティーチング、少人数指導を柱とする「元気福井っ子笑顔プラン」の成果と課題を検証し、福井県独自の教育体制をさらに充実していくための具体策を、少子化時代の学校・学級運営の在り方も含めて検討
- 不登校への対応、家庭・地域・学校の連携方策、家庭・地域の教育力の向上策については、引き続き、具体的方策を検討

（参考） 審議の経過

第1回会議	平成19年 8月17日（金）	論点提示、自由討論
第2回会議	平成19年 9月 4日（火）	自由討論
第3回会議	平成19年 9月28日（金）	自由討論
第4回会議	平成19年10月15日（月）	第一次提言（素案）